



DiGiCo v21
Release Notes

2025年12月

目次

1.0	Quantum 8 の温度警告とファン速度制御	3
1.1	オプションでのデフォルト設定.....	3
1.2	Fourier transform.engine - さらなるコントロール統合 (Quantum のみ)	4
1.2.1	Tap Tempo	5
1.2.2	追加されたコントロール.....	5
1.3	Sound Devices Astral コントロール (Quantum のみ)	5
1.3.1	Astral デバイスの設定.....	5
1.3.2	Astral マクロの実行.....	7
1.4	SD Convert でのマルチセレクト.....	8
1.5	SD9、SD10、SD11 における Fourier インターフェースカードのサポート	8
1.6	Errors Fixed.....	9

1.0 Quantum 8 の温度警告とファン速度制御

周囲環境の影響により、ワークサーフェスが下記のいずれかの温度レベルに達すると、ステータスウィンドウに感嘆符が表示されるようになりました。

次のメッセージが表示され、オプション → コンソールに追加された新しいセクションを指し示します。このセクションには、ファン速度を制御する項目があります。

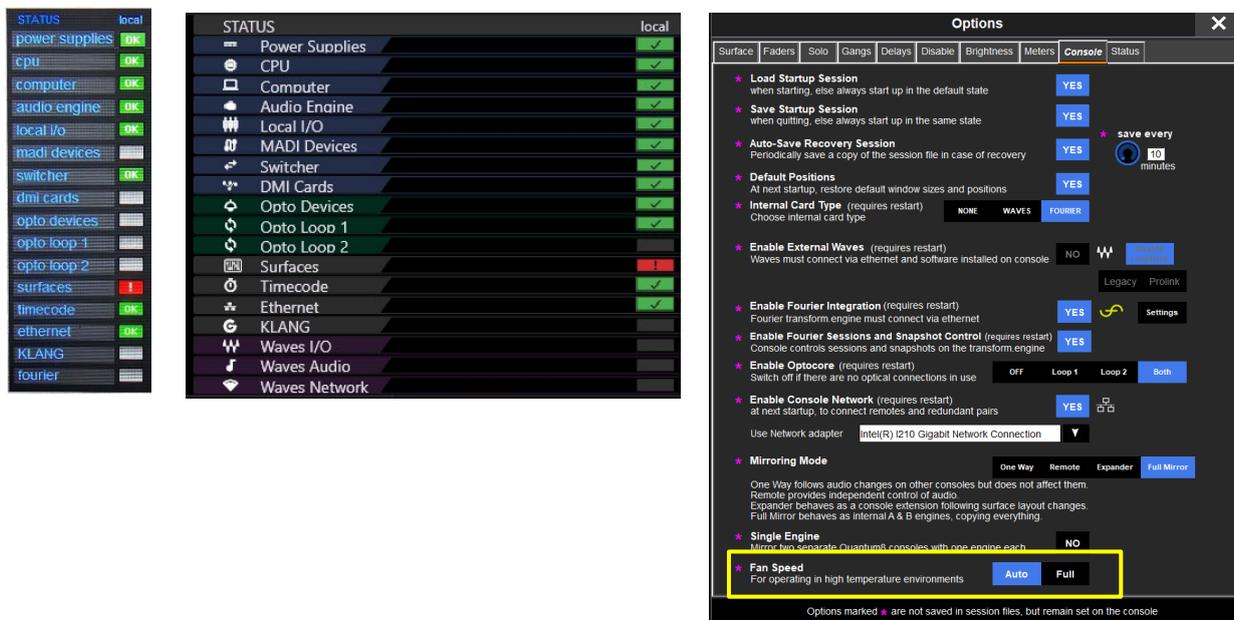
デフォルト設定は Auto（自動）であり、コンソールから変更を促された場合、またはコンソールがメーカー指定の温度範囲（周囲温度 0~40 °C）外で動作していることを把握している場合にのみ変更してください。

低レベル（80°C）

ワークサーフェスが熱くなっています。options → console を開き、ファン速度を Full（最大）に設定してください。

高レベル（84°C）

ワークサーフェスが危険な動作温度に近づいています。options → console を開き、ファン速度を Full（最大）に設定し、コンソールに対して追加の冷却を行うようにしてください。

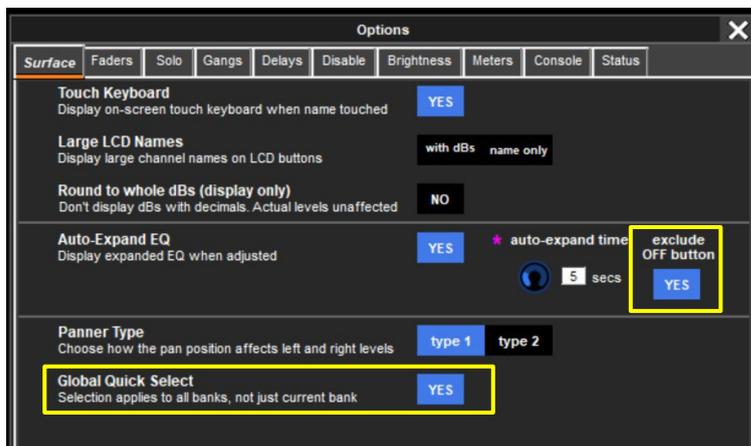


1.1 オプションでのデフォルト設定

Solo：コンソールはデフォルトで Single モードになりました。

Surface：Quick Select 機能を備えたコンソールでは、「Global Quick select」のデフォルト設定が YES になりました。

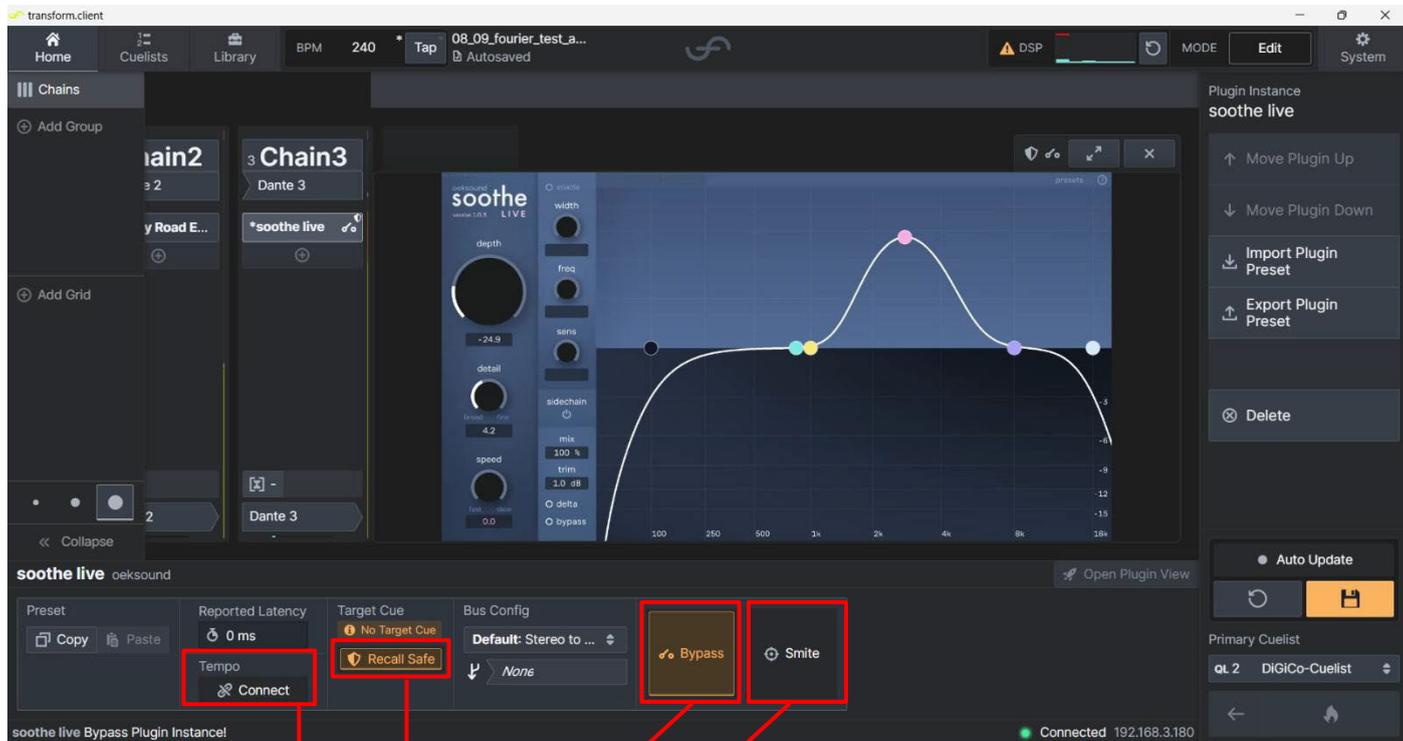
Surface Options では、Auto Expand options 内の「exclude OFF button」スイッチのデフォルトが YES になりました。



1.2 Fourier transform.engine – さらなるコントロール統合 (Quantumのみ)

コンソールの transform.engine コントロールパネルに新しい機能が追加され、コンソールインターフェースからデバイスのさらなる機能にアクセスできるようになりました。

transform.engine client ソフトウェア画面



Console Integrate時、Console Master画面



1.2.1 Tap Tempo

Tap Tempo はコンソールのグローバル Tap Tempo 機能と連動し、その動作に追従するようになりました。

1.2.2 追加されたコントロール

コンソール上の**Fourier** パネルに、**4つのボタン**が追加されました。

Tempo Connect は、プラグインを transform engine のグローバル Tap グループに参加させる機能です。

Recall Safe は、個々のプラグインをセーフ状態にし、どのSnapshotおよびcueの影響も受けないようにします。

Bypass は、プラグインをバイパスします。オーディオ信号はプラグインを通らずに出力されますが、DSP は動作し続けます。これは、ドライ信号と比較してプラグインの効果を A/B 比較するのに便利です。

Smite は、プラグインをシャットダウンして DSP も停止させ、Smite が解除されるまでプラグインの設定を保持します。Smite を解除すると、プラグインは通常動作に戻ります。

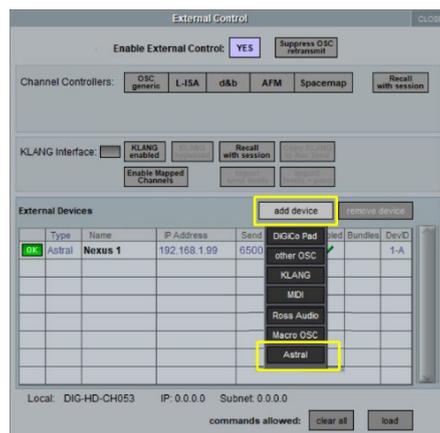
Bypass、Smite、Recall Safe は、パネル左側にあるプラグイン名の横にシンボルとして表示されます。

1.3 Sound Devices Astral コントロール (Quantum のみ)

コンソールから Sound Devices Astral ユニットのマクロを実行できるようになりました。たとえば、「すべての Astral トランスミッターをオンにする」といった操作が可能です。

1.3.1 Astral デバイスの設定

コンソールで Astral コントローラーを設定するには、まず External Control (外部制御) に移動し、Add Device (デバイスを追加) → Astral を選択します。

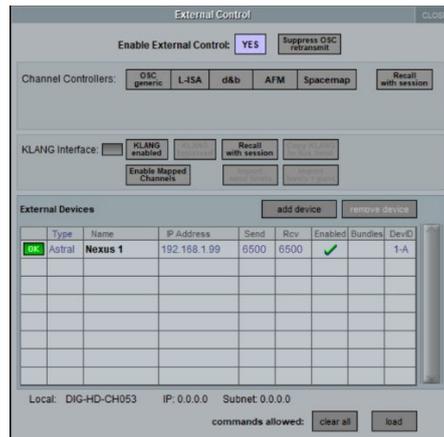


Sound Devices ハードウェアとコンソールの IP アドレスを確認してください。

コンソールの IP は External Control パネルで確認でき、Astral の IP は Network メニュー内の Control IP 項目で確認できます。

コンソールの External Control 画面で、Astral の IP アドレスを入力してください。

なお、Astral 連携を使用する場合、送信ポート (Send) と受信ポート (Receive) は固定で変更できません。

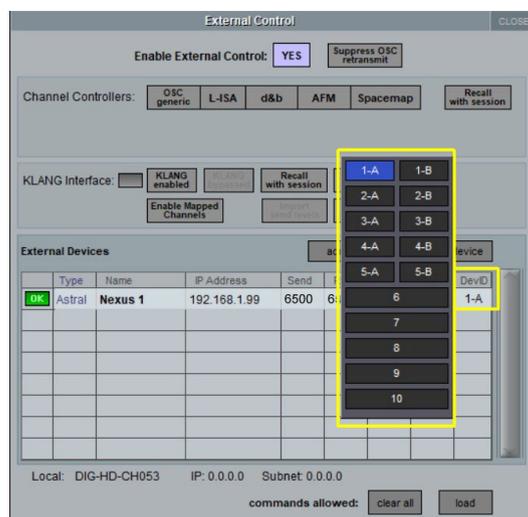
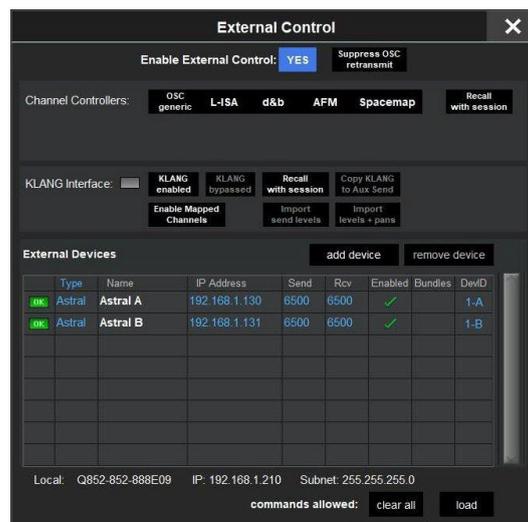


Astral デバイス側で、コンソールの IP アドレスを入力してください。

次のメニューから設定できます：Menu → System → Macros → DiGiCo Console List

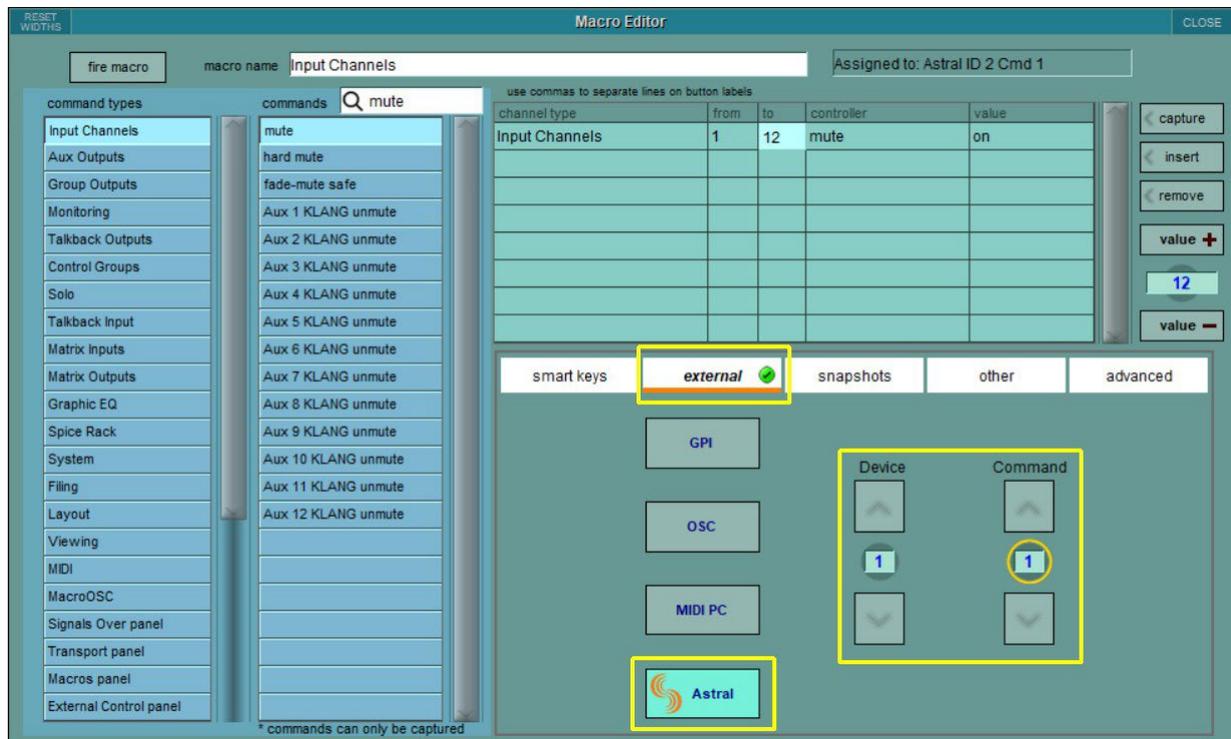
次に、Device ID（デバイス ID）を設定します。ネットワーク上には、リダンダント構成のボックスを最大 5 ペア、または単体ボックスを最大 15 台まで接続できます。

たとえば、2 台の Nexus ボックスと 2 台のコンソール／エンジンがあるシステムの場合、すべての機器で該当する IP アドレスを設定し、両方のコンソール上で各 Nexus ボックスを 1-A と 1-B に設定します。



すべての機器で IP アドレスの設定が完了したら、コンソールの External Control（外部制御）で、対象デバイスを有効化してください。

Astral デバイス上でマクロの設定が完了すると、Device (デバイス) と Command ID (コマンド ID) の両方を選択できるようになります。Command ID は、Astral 側の該当マクロに設定された OSC ID と一致させる必要があります。Device は、External Control で設定した DevID と一致させます。

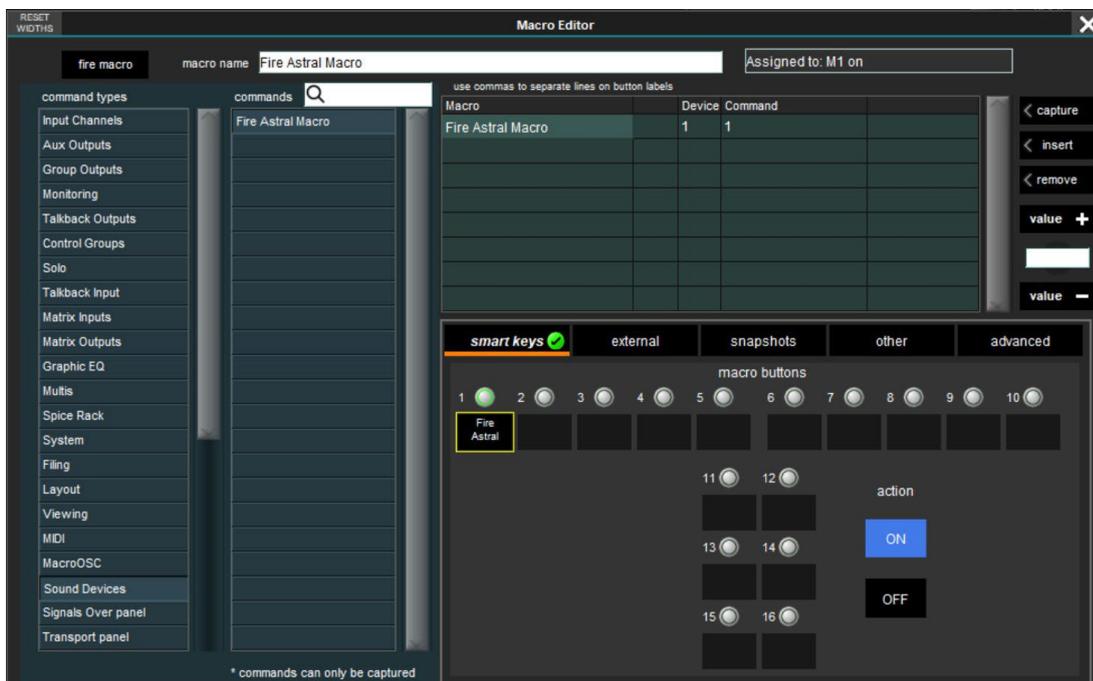


1.3.2 Astral マクロの実行

Macro Editor の Sound Devices コマンドタイプ内に、**Fire Astral Macro** という新しいコマンドが追加されました。これにより、コンソールのマクロトリガーから Astral デバイスのマクロを実行できるようになります。

コンソール側のマクロでは、以下の設定が必要です。

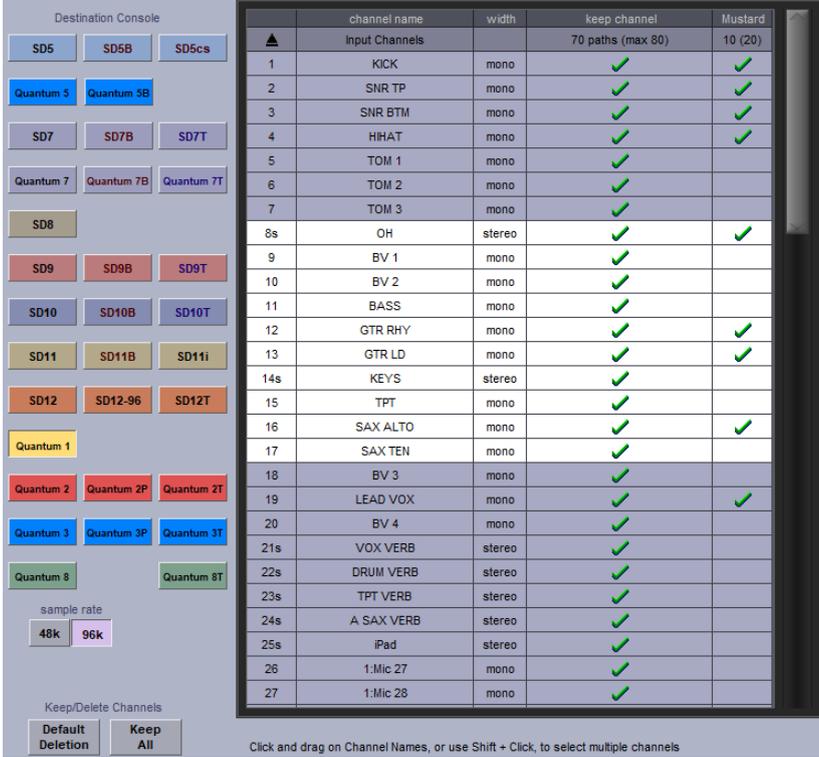
- ・ Device ID : Astral ユニット上の対象デバイスに対応する ID
- ・ Command ID : Astral ユニット上の対象コマンド (マクロ) に対応する ID



1.4 SD Convert でのマルチセレクト

SD Convert で、複数のチャンネルを同時に選択できるようになりました。これは、マウスで複数チャンネルをドラッグして選択するか、Shift + クリック を使用して行えます。

複数のチャンネルが選択された状態では、1 回のクリックで一括して有効化または無効化できます。



The screenshot shows the Destination Console interface. On the left, there are buttons for various console models (SD5, SD5B, SD5cs, Quantum 5, Quantum 5B, SD7, SD7B, SD7T, Quantum 7, Quantum 7B, Quantum 7T, SD8, SD9, SD9B, SD9T, SD10, SD10B, SD10T, SD11, SD11B, SD11i, SD12, SD12-96, SD12T, Quantum 1, Quantum 2, Quantum 2P, Quantum 2T, Quantum 3, Quantum 3P, Quantum 3T, Quantum 8, Quantum 8T) and sample rate options (48k, 96k). On the right, a table lists input channels with columns for channel name, width, keep channel, and Mustard.

	channel name	width	keep channel	Mustard
	Input Channels		70 paths (max 80)	10 (20)
1	KICK	mono	✓	✓
2	SNR TP	mono	✓	✓
3	SNR BTM	mono	✓	✓
4	HHAT	mono	✓	✓
5	TOM 1	mono	✓	
6	TOM 2	mono	✓	
7	TOM 3	mono	✓	
8s	OH	stereo	✓	✓
9	BV 1	mono	✓	
10	BV 2	mono	✓	
11	BASS	mono	✓	
12	GTR RHY	mono	✓	✓
13	GTR LD	mono	✓	✓
14s	KEYS	stereo	✓	
15	TPT	mono	✓	
16	SAX ALTO	mono	✓	✓
17	SAX TEN	mono	✓	
18	BV 3	mono	✓	
19	LEAD VOX	mono	✓	✓
20	BV 4	mono	✓	
21s	VOX VERB	stereo	✓	
22s	DRUM VERB	stereo	✓	
23s	TPT VERB	stereo	✓	
24s	A SAX VERB	stereo	✓	
25s	iPad	stereo	✓	
26	1: Mic 27	mono	✓	
27	1: Mic 28	mono	✓	

Click and drag on Channel Names, or use Shift + Click, to select multiple channels

1.5 SD9、SD10、SD11 における Fourier インターフェースカードのサポート

Fourier インターフェースカードが、SD9、SD10、SD11 コンソールでサポートされるようになりました。これにより、48 kHz および 96 kHz の両方で 64 チャンネルの双方向 Dante オーディオを扱うことができます。カードをコンソールに装着した後、Options → Console → Internal Card Type でコンソール側にカードを指定できます。

1.6 Errors Fixed

- マルチチャンネルを展開した際、ミュートインジケーターがバンク間でミュートスイッチに追従してしまう問題がありましたが、実際のチャンネルはミュートされず音声が通っていました。これを修正しました。
- Aux On Faders 有効時にレイヤーを切り替えた際に発生していた AV 00473216 を修正しました。
- SD12 から SD11 へのセッション変換後に再構成を行うと、MADI BNC ポートが完全に削除されてしまう問題を修正しました。
- External Control Options から MIDI/HUI に関する記載を削除しました。
- 変換後に発生していた Nodal 処理の不整合を修正しました。
- Q1 UB MADI : 96 kHz 使用時にまれに発生していたチャンネルルーティングの不一致を修正しました。
- Q1 における AV 0040A698 および tVMeter32 の不具合を修正しました。
- Multi で Aux が折りたたまれている状態で、KLANG または Nodal 処理を備えた Aux ノードを選択すると発生していた AV 00743216 を修正しました。
- KLANG 有効のマルチチャンネルで Aux on Fader を使用した際、Q8 の上位フェーダーバンクにチャンネルがリンクされてしまう問題を修正しました。
- Q8 で温度が閾値付近にある場合に、温度エラーのメッセージが繰り返し表示される問題を修正しました。
- Q8 の温度エラーメッセージが誤って表示されることを防止しました。
- Q8 で Preset Scope を変更した際に、意図せずチャンネルが選択されてしまう問題を修正しました。
- Q8 のマスタースクリーン上のメーターがグリッドにスナップするようになり、セッションをロードした際に配置位置を記憶するようになりました。

202512

●この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。●商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。●掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。●記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。



ヒビノインターサウンド株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸2-7-70

E-mail: info@hibino-intersound.co.jp

<https://www.hibino-intersound.co.jp/>